



第14回生体恒常性とストレス応答セミナー

エピジェネティック制御 ー基礎から臨床へー

大阪大学大学院 医学系研究科

教授 仲野 徹 先生

日時: 2013年5月30日(木)

18:00~19:30

場所: 山口大学医学部基礎研究棟1階セミナー室

エピジェネティック制御とは、塩基配列によらない遺伝子発現制御機構であり、DNAメチル化とヒストン修飾が、その分子基盤をなしています。細胞の分化過程というのは、エピジェネティックな状態が確立されていく過程そのものであり、また、がんや生活習慣病、精神疾患といった疾患の発症にもエピジェネティック制御が関与していることがわかってきています。

我々の研究室では、エピジェネティック状態が劇的に変化する、受精直後の初期胚におけるDNA脱メチル化制御(Nakamura et al, *Nature Cell Biol* 2007, *Nature* 2012 など)と、雄性生殖細胞の発生における *de novo* DNAメチル化制御(Kuramochi-Miyagawa et al, *Genes Dev* 2008, 2010 など)についての研究をおこなってきました。それらの研究成果をわかりやすく紹介しながら、エピジェネティック制御とは何か、どうして重要なのか、そして、これからの医学においてどのように応用されていくのかについてお話する予定です。



医学部学生・大学院生を含め、多くの方のご来場をお待ちしております。

主催: 山口大学研究推進体「ストレス応答と関連した難治性疾患の克服のための戦略」
問い合わせ先: 医化学分野 中井 彰 (2214)

